

A市における満足度アンケート調査を用いた介護予防

(手工芸教室)のプログラムの検討

板谷美奈、中村政明、劉 暁潔

第48回(平成29年度)日本看護学会論文集 ヘルスポモーション,
2018: 134-137

水俣病公式認定から60年を迎え、水俣病の被害者やその家族の高齢化も深刻化しています。水俣市の65歳以上の高齢者人口は年々増加し、平成26年時点で総人口に占める高齢化率は34.2%であり、全国平均の25.1%、熊本市の27.2%と比べても極めて高い水準です。高齢となった水俣病被害者が充実した生活を送るためには、水俣病により失われた地域社会との関係や人間関係の再構築(もやい直し)が望まれています。その一環として、我々は、水俣市社会福祉協議会と共同し、もやい直しを推進するため、水俣病患者を含む60歳以上の住民に地域福祉活動(地域リビング)として、手工芸を提供しています。また、認知症対策は地域福祉の重要な課題であり、手工芸を行うことで認知機能に重要な前頭前野の活性化が期待されます。本研究では、地域リビングの参加者に、より良い手工芸を提供するために満足度調査を行い、最適な手工芸の実施方法を検討しました。

まず、課題の難易度(4段階に分類)と参加者の満足度を検討したところ、1番簡単な課題の満足度が有意に低いという結果がえられました。また、満足度が有意に低い課題を除いて、スタッフ1人当たりの受け持ち人数と満足度の間の相関を調べたところ、スタッフ1人当たりの受け持ち人数が多いと満足度が下がるという負の相関が認められました。さらに、平均満足度を得るためには、スタッフ1人当たりの参加者の人数は5.08人以下が望ましいという結果も得られました。

この満足度アンケート結果を参考として、後期ではプログラムの改善を行い、満足度の変化の検討を行いました。1番簡単な課題を行い、満足度の低かった2地区において課題の難易度を「簡単」から「丁度良い」へ変更したところ、2地区とも満足度の上昇が見られました。また、前期でスタッフ1人当たりの受け持ち人数が5.08人以上であった3地区中2地区でスタッフの増員を図ったところ、2地区とも満足度が高くなりました。

これらのことから、満足度の高い、より良い手工芸を提供するためには、満足度調査を用いて課題の難易度やスタッフの人数など総合的に検討する必要があると考えられました。

今後も多くの参加者に満足していただけるよう、プログラムの検討を行っていきます。多くの方の手工芸教室の参加をお待ちしております。